

- ◇2020 年度定時総会の報告(堀越正夫)……1 頁
- ◇塾生と学ぶ(神剛司)……2 頁
- ◇放置したままの預金口座はありませんか? 10 年たつと「休眠預金」(なかたにみさこ)……3 頁
- ◇東吉野村でのビールづくり 製造・販売の展開へ(石井啓順)……5 頁
- ◇With Corona Let's ポタリング(中島由美子)……6 頁
- ◇山添村の地域づくり～山添村の「自然資源」を活かす試みに向けて～(宮下和之)……6 頁
- ◇あるけれど気づいてない地元の宝物を発掘する(高田直裕)……7 頁
- ◇第 13 期地域 P&C 養成塾開講(中辻孝之助)……9 頁

一般社団法人 地域づくり支援機構 2020 年度定時総会の報告

堀越正夫(専務理事・事務局長／地域 P&C 第 3 期生)

去る 7 月 25 日(土)、奈良県文化会館集会室 A・B において、「一般社団法人地域づくり支援機構 2020 年度定時総会」を開催しました。例年とは異なり、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行ったうえでの開催となり、会員の皆さまにはご不便をおかけ致しました。

以下のとおり、総会は成立し、議案は決議されましたので、ご報告を申し上げます。

1. 総会の成立

総会は、正会員 66 名に対して、出席会員数 43 名(本人出席 16 名、委任出席 28 名)で、過半数の出席により成立しました。

2. 総会議案議決について

①第 1 号議案 2019 年度事業報告並びに収支決算承認の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

②第 2 号議案 2020 年度事業計画並びに収支予算承認の件

本件は、原案を審議いただき、会員数を低めに見積もった収入予算を現会員人数に合わせた収入予算としました。支出予算では、SDGs 推進部会の事業予算を 30 万円に、地域づくり指導・支援の事業予算を 20 万円に修正をしたうえで承認・可決されました。

2020 年度以降の事業については、現役員、また、会員の皆さまのご協力・ご支援のもと運営していく予定です。会員の皆さまにおかれましては、各種事業についてご参画・協力をよろしくお願い申し上げます。

※事務局は、下記のメンバーです。よろしくお願い致します。

事務局長:堀越正夫、事務局次長:中辻孝之助、渉外部長:大塚徹

会計担当:なかたにみさこ、広報担当:東千恵子

地域 P&C 養成塾長:神剛司、同塾頭:中辻孝之助

※総会終了後、地域 P&C(第 12 期)の認証式が行われ 5 名の仲間が誕生しました(右写真)。また、彼らから活動報告が行われました。



新地域 P&C(左から、宮下和之氏、中島由美子氏、中窪晋也氏、外狩大樹氏、高田直裕)

塾生と学ぶ

神剛司(理事／地域P&C 養成塾塾長／地域P&C 第3期生)

地域P&C 養成塾第12期塾生の皆さん、ご卒業おめでとう。新型コロナウイルスの影響で5月の総会の延期などではささか残念でしたが、塾生5名が一人も欠けることなく、地域P&C 認定試験に合格し、NAED 認定の地域プランナー、コーディネータとして巣立つことを塾長として本当に嬉しく思います。

高田直裕さん、あなたは子どもの頃の賑わい・活気が失われ、寂しくなった地元の現状に危機感を感じて歴史を活かした観光に関心をもったことを参加目的にあげていました。地域を思う若者のピュアな動機に塾としてどこ



まで応えられるのか一瞬悩みましたが、それも束の間、あなたには若林理事が「高田君は俺の若い頃に似ている」と徹底的にあなたを鍛えてくれました。世代を超えたつながり、その大切さを知り、厳しい指導にも淡々と応え、あなたは少し大きくなったように見えますよ。高田さん、第12期のリーダーお疲れさまでした。

宮下和之さん、あなたは、他府県での仕事ばかりなので、地元奈良県での拠点づくり・仲間づくりをしたいという参加目的でした。

実際に同期の山添村の中窪さんとチームを組んで発表するなど、水平連携をされ、頑張っていましたね。いつも冷静に行動する姿が印象的でした。塾長として反省すべきは、もっと塾生同士が課題を見つけ合い、語り合い、解決し合う機会を数多く創ってあげればよかったと悔やまれます。第12期のサブリーダーご苦労さまでした。

中島由美子さん、あなたは今まで培ってきた経験をさらに磨き、連携力を高め、地域活動に活かそうと参加されました。その多彩で輝かしい活動経歴に驚いたものです。多忙な活動の中での養成塾へのご参加はさぞ大変だったと思いますが、養成塾ではさらなる磨きはかかったでしょうか。とくにプレゼンの上手なあなたには、さらに高みを目指してほしくて厳しいことを言い続けましたが、その都度、素直に伝えてくれたことに感謝しています。

外狩大樹さん、あなたは講座や実践で知識やスキルを身につけ、ゲストハウス開設に向けてステップアップしたいという理由で地域づくり協力隊の立場で参加されました。一番年下なのにいつも落ち着いた佇まいが不思議でしたよ。これからゲストハウス開設にあたり、事業計画など課題が出てくるようでしたら、ぜひ知恵者ぞろいのNAEDを頼ってほしいと思っています。あなたは若い。それが何よりの財産です。

中窪晋也さん、あなたの参加目的は、「活動を紹介するプロモーション支援や祭の再興をする能力を身につけたい」「村外の人々にも関わってもらいながら、これらの地域づくりでコミュニティビジネスができる能力を身につけたい」「ゼロから何かをつくり上げたい」と塾生の中で最も欲張りでしたね。山添村ご出身で村から地元の活性化への期待を一身に集めているホープなのだなと感じていました。今後いろいろと課題はあるでしょうが、持ち前の明るさと芯の強さで乗り越えて行ってほしいです。そして、あなたはそれができる人です。

私は博物館づくりという仕事を通じて、様々な地域と関わってきましたが、特定の地域で活動をしているわけではなく、地域P&C 養成塾の塾長を拝命していることによりどこか座り心地の悪さを感じる一方で、逆に特定のフィールドをもたないからこそ、こうして自由に縦横にみなさんと接することができるのかもしれない。また、地域P&C 養成塾は塾生だけでなく、教える側も人間として学ぶことが多いと本当に感じています。

改めて、第12期塾生の皆さん、卒業おめでとうございます。地域P&C 養成塾で皆さんと学び合いながら一年間、同じ空間と同じ時間を共有できたことを嬉しく思います。これからは地域づくりを志す同じ仲間同士です。

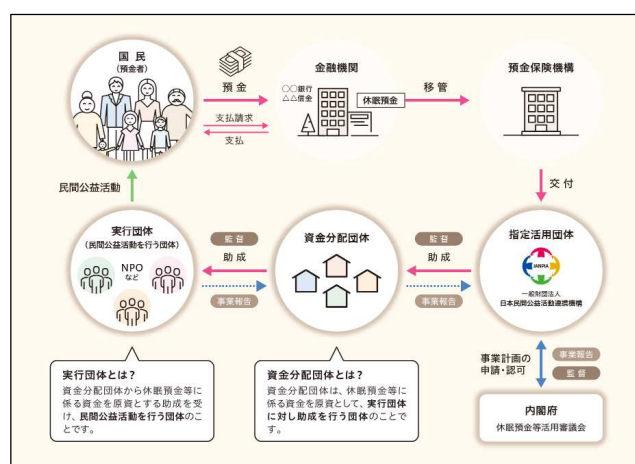
放置したままの預金口座はありませんか？ 10 年たつと「休眠預金」

なかたにみさこ(理事／SDGs 推進部会部会長／地域 P&C 第 4 期生)

1. はじめに

2017 年 12 月 9 日、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」が公布され、2019 年 1 月 1 日施行されました。ご存じでしたか？ 10 年間取引がない預金は毎年 1,200 億円程度発生しています。そこで、その 10 年間取引がない「休眠預金」を、民間公益活動のために活用する休眠預金等活用法が始まりました。もちろん、その後引き出されている 500 億円ははじめ預金者等の利益を保護しつつ、休眠預金等に係る資金を民間公益活動を促進するために活用することにより、国民生活の安定向上及び社会福祉の増進に資することを目的とした法律です。

10 年間、取引などがなく休眠預金となったお金は、金融機関から預金保険機構に移管されます。その後、



公募により選定される団体を通じて、NPO 法人など民間の様々な団体が行う公益活動に活用されます。具体的には、法律により、公益に資する活動として、子ども若者支援、生活困難者支援、地域活性化等支援の 3 分野に活用することとされています。民間公益活動を行う NPO 法人等に助成、貸付けまたは出資を行う資金分配団体の公募が、内閣総理大臣により指定された一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)によって行われています。この JANPIA は指定活用団体になることを意図して経団連により設立された団体です。

2. この制度の目的と効果

法第 17 条に規定されている公益に資する活動は、①子ども及び若者の支援に係る活動、②日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動、③地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動の 3 点です。分配団体の JANPIA では、さらに、以下のように示しています。

①子ども及び若者の支援に係る活動

- 1) 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援、2) 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援、3) 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援

②日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援に関する活動

- 1) 働くことが困難な人への支援、2) 社会的孤立や差別の解消に向けた支援

③地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に関する活動

- 1) 地域の働く場づくりの支援、2) 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記のような課題の中で、特に行政では対応困難な社会の諸課題の解決を図り、民間の公益活動の担い手の育成と民間公益活動に係る資金調達の環境整備を目的としています。そしてこの投資によって、課題解決のための自律的かつ持続的な仕組みが構築され、民間公益活動を行う団体の資金的自立性と事業の持続可能性が確保されることを目指します。この課題解決は、もちろん SDGs の達成にも繋がります。

3. 資金の活用にあたっての基本原則

この税金ではない国民の資産である休眠預金を財源とすることから、9 つの原則が示されています。国民への

還元、共助、持続可能性、透明性・説明責任、公正性、多様性、革新性、成果最大化、民間主導の9つが政府の「休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針」に書かれています。そこから、以下の3点が重視されています。

- ①国民、ステークホルダー(多様な関係者)への事業の透明性や説明責任
- ②事業の成果の可視化⇒社会インパクト評価の実施
- ③民間公益活動を担う組織の能力強化を目的とした伴走支援(プログラム・オフィサーの確保と育成など)

現在はソーシャルビジネス形成支援事業、災害支援事業、草の根活動支援事業、新規企画支援事業 25 資金分配団体そして新型コロナウイルス対応緊急支援 20 資金分配団体が採択されて始まっています。

私は現在、そのうちの、公益財団法人信頼資本財団の「孤立状態の人につながりをつくる」で支援する10団体のひとつ、奈良県の団体の伴走支援を担当しています。上記③の伴走支援です。そして、伴走支援者の役割のひとつが、②の社会インパクト評価の支援です。

今、事業評価においてこの社会的インパクト評価が取り入れられつつあります。社会的インパクト評価とは、事業や活動の短期・長期の変化を含めた結果から生じた「社会的・環境的な変化、便益、学び、その他効果」を定量的・定性的に把握し、事業や活動について価値判断を加えること(G8 社会的インパクト投資国内諮問委員会 社会的インパクト評価ワーキング・グループ(2016)『社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル』)。昨今、「事業を適切に評価することで社会課題の解決により寄与したい」「より成果の高い事業に資金を提供したい」と考える資金提供者などが増加したことにより、近年、急速に発展してきた考え方のひとつです。

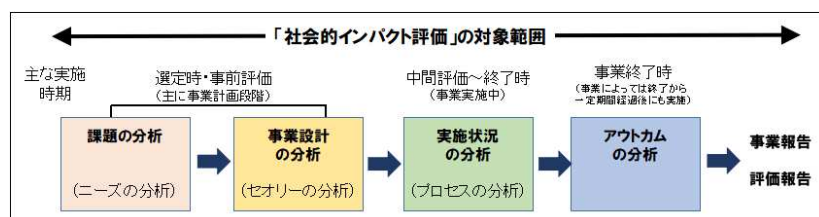
これまで社会的事業は、「どのような対象者に対して、何人ぐらいに、どんなサービスを提供したか」といった“アウトプット(結果)”を成果報告とすることが一般的でした。しかし、「事業実施によって、どのような変化が社会に起きたのか」という“アウトカム(成果)”を重視する潮流が国際的に高まりつつあり、最近導入されてきている評価です。

休眠預金の資金分配において社会的インパクト評価を行う目的は、以下の3点だとされています。

- ①休眠預金等に係る資金の活用の成果を積極的に情報発信することで、広く国民の理解を得ること
- ②評価結果を適切に予算や人材等の資源配分に反映し、民間公益活動を効果的・効率的に行うこと
- ③厳正な評価を実施することにより、民間公益活動全般の質の向上、独創的で有望な革新的な民間公益活動の発掘、民間の資金や人材の獲得等を促すこと

社会的インパクト評価は、課題を明確化し、取り組む事業のインプット、取り組む活動、アウトプットとアウトカムの因果関係を整理するロジックモデルの策定から始まります。アウトカムのうち、評価する対象の指標と測定方法を選び、評価方法をまず考えます。このデザインに沿って、指標のデータを収集し分析します。そこから、設定したアウトカムになっているのかを検討、課題やうまくいかない要因を検討し、事業改善を図ります。そして投資した国民を含むステークホルダーに報告していくことになります。こうして説明責任と事業の改善に繋がる社会的インパクト評価を達成することで、より質の高い事業を継続的に実施することが可能になると捉えられています。

2020年度の資金分配団体の受付が始まりました。秋には次年度以降の実行団体の募集も始まる予定です。最長3年の複数年度が基本で、助成総額は33億円です。いかにこの資金を活用し、新しい公共を生み出していけるのか、始まったばかりのこの取り組みにぜひ関心をもってください。



社会的インパクト評価の体系

(JANPIA「資金分配団体・実行団体に向けての評価指針」より)

東吉野村でのビールづくり 製造・販売の展開へ

石井啓順(地域P&C 第11期生)

この6月、国税庁から酒類醸造許可が下りて、一軒の古民家を改修したビール工場も完成し、ようやくビールを作ることができるようになりました。東吉野村に来て3年目。やっと一歩を踏み出せました。飲食・宿泊などの準備はまだ何も完成していませんが、まずは製造・販売を展開してまいります。7月12日に初仕込みを行いました。伝統的なイギリススタイルのビールに東吉野村産の杉のウッドチップを浸けこみました。良い感じで仕上がりそうです。

ここまで来るのに感じたのは、まずは小さくても自分で投資して始めること、そうすれば本当に協力してくださる人が現れるということです。とはいえ、いろいろと壁にぶつかってばかりで、小さな失敗は多々ありますし、今でもあります。思うような商品として完成させるのになかなかの時間と労力がかかっています。なので、商品ができるまでしばらくはお待ちくださいませ。

屋号は「グットウルフ麦酒」

ニホンオオカミが最後に発見された東吉野村から狼にちなんだ名前に決めました。グットは「ぐっと、呑みましょ」「心にグッとくる」のグットです。英語では「The good wolf Brewery」、良い狼です。今井町の若林稔さんに「良狼」の書を筆で書いていただきました。とても素敵に書いていただきました。ラベルをぜひご期待ください。そんな若林さんの書に少しでも近づけるよう、美味しいビールを作ってまいります。

これからが本当のスタートです。東吉野村で小さいけれど自分で事業を始めようと覚悟を決め、今日に至ります。もちろん商売というものは簡単ではないです。たくさん勉強して準備して行うことが重要でしょうし、先走って焦って物ごとを動かすべきではないと思います。ですが、ここでビールを作りたい、あなりたいと思っていると物ごとって進んでいくのですね。

ビールを作るのは何のために、東吉野村や住んでる人にとって何ができるのか、そんなことをよく考えます。ただ考えていても、答えはなかなか見つかりませんし、本当に自分の力のなさや、考えることが小さくて落ち込むことがあります。でも何度も申しますが、自分で何かを始めて少しでも形になると周りの目はどんどん変わっていくように思います。それに、やはり地域の人たちがとても勤勉に働く姿を見させていただき、また僕みたいな他所から来た人間にも人情をかけてくださるお気持ちがとてもわかるので、自分も頑張らなくてはと思います。

本当に東吉野村の人たちと汗をかくことができ、こんなに幸せなことはないな、と思う日々です。8月1日・2日の土曜日に、まずは村の方々にビールのお披露目をさせていただき、感謝の気持ちとさせていただきます。そして、早く商品として世に出せるよう早急に取り組みます。その時はまたお知らせさせていただきます！これからどうぞよろしくお願い致します。



※石井氏のビールづくりは、2020年7月29日の毎日新聞に「地域に愛されるビール作りを 奈良・吉野に移住の醸造家 隠し味に特産品も」とのタイトルで、大きく紹介されました。

With Corona Let's ポタリング

中島由美子(地域P&C 第12期生)

先日、7月25日に第12期地域P&C養成塾を修了させていただきました、河合町在住の中島由美子です。養成塾では多大なご指導、ご支援ありがとうございました。これからが始まりと心を引き締めて地域貢献に取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い致します。

さて、新型コロナウイルス感染症問題で皆さまの生活はどのように変わりましたか？それともお変わりございませんでしたか？感染リスクが高いとされる年齢層の方や、生活習慣病や高度治療が必要とされる病と闘っておられる方にとっては怯えるような毎日だったのではないのでしょうか？そのご家族も同じ、またはそれ以上の心境だったのでしょうかね。

「正しく恐れる」知識は大切ですね。緊張感が必要ですが、工夫を考える楽しみはこんな時だからこそ、より楽しい時間を生み出してくれそうです。

私は、河合町西大和地区から自転車活用のポタリングで、「住んできて良かった」と思える健やかな地域づくり、地域包括ケアシステムの草の根活動をしています。5年計画の3年目となる今年のLet'sポタリングの内容は、何度も練り直しました。他のイベントなどが相次ぎ“今年一杯は中止宣言”をされる中、「石に上にも3年」はなんとしてもやり遂げるといふ思いから、どうすれば開催できるかを考えました。

また、北極圏、シベリア地方などで凍土が溶け出すニュースを昨年あたりから見聞きする機会が増え、その都度、ウイルスやバクテリアとの生存競争が激化することに警戒感を覚えていましたので、今の状況は、ある程度イメージトレーニングできていました。

6年ほど前に行々はこんなことしたいと考えていたことを、今年やってみよう！と挑戦の駒を指すことを選択しました。それは、「自転車×新生活様式」「リアル×リモート×VR」のLet'sポタリングです。馬見丘陵公園辺りのコースをメインコースにします。新方式は全くの実験ですので、笑い話がお土産かもしれません。

外出自粛で新しくWEBデビューされた方も多いと思います。何か「これ面白いぞ！」というリモートやVRの手段・方法がありましたら教えてください。楽しいご一報を、お待ち致しております。

山添村の地域づくり～山添村の「自然資源」を活かす試みに向けて～

宮下和之(地域P&C 第12期生)

背景:山添村の地域づくりに関わるきっかけ

今年、第12期地域P&C養成塾を修了いたしました。小生は、この養成塾の中で取り組むプロジェクトテーマとして、山添村在住で同じ塾生の中窪晋也君とともに、地元NPOとも連携するかたちで、山添村での地域づくりに取り組むことにしました。

「山添村のおばあちゃんと一緒に昔ながらの手仕事体験プログラム～」と題し、高齢者がもつ昔ながらの手しごとの業を「地域づくりの資源」として活かす試みを始めました。養成塾の期間中には、おばあちゃんたちがご提案くださった「手しごと年間計画(案)」をもとに、「干し柿づくり」と「シイタケ菌打ち」の2つの体験プログラムを試行しました。

今後も継続して、おばあちゃんたちをはじめ地域の人たちとの交流を深めながら、順次、体験プログラムの企画・運営を進め、地域住民が活躍できる場と都会の人との交流の場を創出し、地域活性化の推進を目指していく予定です。

一方、4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、高齢者のおばあちゃんたちと気軽に集まる機会や、外から人を呼び込むイベントの開催に制約が生じ、当初の予定どおりには進んでいない現状です。しかし、焦ら

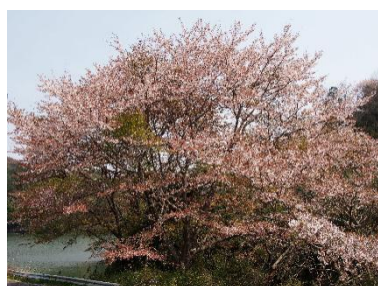
ず無理をせずに、できることから持続的に取り組んでまいります。

山添村の「自然資源」を活かす試みに向けて始動

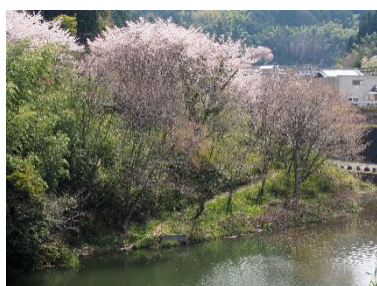
新型コロナウイルス感染症の影響下で、手しごと体験プログラムの企画進行に制約が生まれたことで、他に何かできることはないのかとプロジェクト関係者で話し合いを行い、山添村の「自然資源の掘り起こし」を行うプロジェクトを並行して進めることとしました。

対象とするのは、山添村ならではの特徴的な自然資源に加え、周囲の身近にありふれた自然資源も対象に、山添村にある自然の魅力を発掘し、地域づくりの資源として活かす方策を検討していく予定です。

4月から調査を始動し、まずは、手しごと体験プログラムの拠点となる施設(空き家を活用したコミュニティ施設)周辺から調査を開始しました。山添村は、其処此処で多くのサクラが楽しめる山村であることに気づきました。周囲には、ごく普通に見られるもので希少な植物ではありませんが、多くの野草が見られます。活用できる画像を撮影しつつ、山添村の自然資源のデータの蓄積を進めていきます。



布目ダム湖畔のサクラ



桐山戸隠神社のサクラ



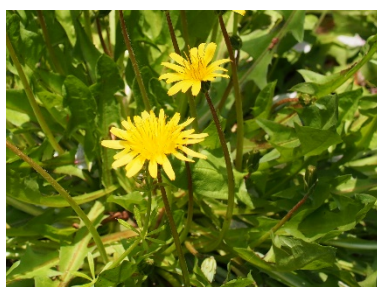
ヤマブキ



ナガバモジイチゴ



オニタビラコ



カンサイタンポポ



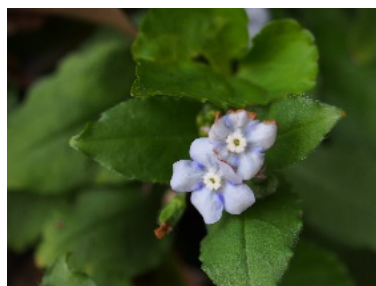
カキドオシ



キラソウ



ヒメオドリコソウ



ヤマルリソウ



タチツボスミレ



ムラサキケマン



クサノオウ



ネコノメソウ



アケビ



サルトリイバラ



コバンソウ

山添村で撮影した春の野草(2020年4月16日調査)

あるけれど気づいてない地元の宝物を発掘する

高田直裕(地域P&C 第12期生)

私の地元である奈良県桜井市は、三輪素麺、柿の葉ずし、卑弥呼、大神神社など、有名なものがあります。しかし、私は「あるけれど気づいていない地元の宝物が、まだあるんじゃないかな?」と考え、パッと浮かんだのが、子どもの頃、大好きだった“みたらしだんご”でした。



よく見る“みたらしだんご”は、丸くて、甘いたれがつけられています。が、地元で見る“みたらしだんご”は、地元の米粉を使っており、少しぺちゃんこ、甘すぎず辛すぎず、ちょうど良い醤油味になっています。

そんな“みたらしだんご”ですが、食べたことがない人や見たことがない人は、ほとんどいないと思います。なぜなら、“みたらしだんご”は、もはや名産ではなく、普通にあるものであり、名産という意識で食べていないからだだと思います。そこで私は、地元普通に当たりまえにある“み

たらしだんご”を広めたいと思いました。

しかし、“みたらしだんご”を調べてみても、知らないことばかりであったため、もっと知るためには、現地へ足を運ばなくてはならないと思いました。

私は、“みたらしだんご”の発祥地である京都市の下鴨神社内にある「御手洗社」や、昔ながらの“みたらしだんご”を作っている「加茂みたらし茶屋」で元祖の“みたらしだんご”を食べてきました。



また、数々のだんご屋で“みたらしだんご”を食べてみました。現地へ足を運ぶだけで、“みたらしだんご”について以前より深く知ることができました。

現場をあまりにも知らなさすぎた私は、改めて白紙からスタートし、“みたらしだんご”や自分の地元である桜井市を一から精力的に見つめ直し、地域の人と語れる人間を目指していきたいと思います。そして、まだ世間が気づいていないことに気づき、世間に知ってもらおうと努力する人に、少しでも近づけるようになりたいと思います。

皆さま、“みたらしだんご”や「桜井市」でご存じのことがありましたら、お教えてください。

第13期地域P&C養成塾 開講

中辻孝之助(理事／地域P&C 養成塾塾頭／SDGs 推進部会副部会長／地域P&C 第9期生)

1. はじめに

厳しい社会経済状況の中ですが、多くの方々のご協力・ご支援を得て、7月4日から、9名の塾生(7月18日現在)の入塾により、第13期地域P&C 養成塾を開講することができました。

2. 地域P&C 養成塾の開催趣旨

各地域におけるEcological Development(地域が連綿と引継ぎ育ててきた自然、歴史文化、生活文化、人的資源、伝統技術などの地域資源を活かし、地域の主体性と地域資本によって、また地域の多様な関係者の「共働」と他地域との連携によって、現世代の満足を充たしつつ、生きとし生けるものすべての将来世代へ引継ぎ得る地域を創ること)を実践する、あるいはそれを指導・支援する「地域プランナー・コーディネータ」の資格認定を目指す。

この地域づくり支援人材養成講座を通じ、持続可能な地域社会を実現するための地域づくり・人づくりを中心に、その資格取得者と成り得る知識と資質の向上を図るとともに、常に問題意識をもち行動できる、実践的なノウハウを習得する機会として開講する。

3. 開催場所

阿伽陀屋若林亭(橿原市今井町 4-11-26／メイン会場として開催)



阿伽陀屋若林亭

今年度の養成塾は、古民家再生現場でもある「阿伽陀屋若林亭」の開催であり、遠方からの塾生は、ご厚意により宿泊できることとなったため、規定時間を外れても先輩方の実施体験を見聞きできる時間が得られ、臨場感あふれる拠点となった。これまでの会場と違い、実践中の町中での開催であり、直接、地域や近隣の動向を肌で感じることができ、生きた教材にふれることが多くなるであろう。

4. 運営体制

塾長:神剛司(理事／地域P&C第3期生)

塾頭:中辻孝之助(理事／地域P&C第9期生)

エグゼクティブサポーター:若林稔(理事／地域P&C第5期生／今井町町並み保存会会長)

サポーター:井ノ本直三(副理事長/地域P&C第2期生)、野口隆(理事/地域P&C第1期生)

吉田遊福(理事／地域P&C第3期生)、布川拓海(会員／地域P&C第9期生)

事務局:堀越正夫(専務理事・事務局長／地域P&C第3期生)

講師:11名(うち外部講師2名)

協力:今井町町並み保存会、深野〇〇会

5. 開講日(2020年7月4日)における入塾状況

8名(男性4名、女性4名)

(十津川村地域おこし協力隊、御杖村
地域おこし協力隊、山添村集落支援員、
京都府笠置町地域おこし協力隊、イン
バウンド対応講師、会社員など)

<開講日までの状況>

2020年4月中旬頃から募集を開始した

が、新型コロナウイルス感染症の影響により、各行政の地域おこし協力隊の着任状況が不明確となり、募集営業困難となっていた。ところが、5月下旬頃から入塾希望者が出始め、先輩地域P&Cからの紹介を含め入塾希望者が10名に上った。今期は、コロナ禍をチャンスと捉え入塾する傾向にあり、前向き姿勢の方が入塾された。

入塾キャンセルは、大学履修中であり大学講義日未確定による者1名、コロナウイルス過敏反応者1名であるが、この2名は、第14期に入塾するとしている。



阿伽陀屋若林亭の前で



第1回養成塾開催の様子

6. 新型コロナウイルス感染防止対策

①問診を行い、また毎回、受講者の新型コロナウイルス感染防止対策の認識を高め、日常から健康管理に留意してもらっている。

②アルコール消毒液、体温測定器を備え付け、マスク着用、席間を空けるなどの対策をとっている。

7. 第2回養成塾と今後

①7月18日(第2回)より、前回は見学参加されていた大和郡山市職員(女性)が加わり、塾生は9名となる。

②各地域の活動が新型コロナウイルス感染防止対策により、中止・縮小・不透明になる中であるが、塾生たちが実践的なノウハウを習得する機会を逃さないよう現地研修場所の発掘に努め、塾生たちに提供していくこととする。

1)メイン会場での懇親会およびワークショップ

2)下北山村内(9月12日)

3)宇陀市室生深野(9月27日)

など、民間主導で行政が関連しないところ



第2回養成塾開催の様子

8. SDGs との関係

養成塾講義終了後を利用して塾生とSDGs推進部会とのコラボで

6回程度のSDGs研修を予定しているが、今年度塾生には興味をもつ

者が少ないことから、いったんキャンセルし、塾生たちにはEDGsとSDGsとの関係性についてのみ発信していくこととする。